

■新琴似中学校の実践

(1) 研究内容

アイヌ文化に触れ、アイヌ民族への理解を深める。

(2) 学習活動を通して育てたい力

共生社会の担い手として必要な多民族、多文化に対する教養を身に付け、尊重する態度を培う。

1. アイヌ民族に対する理解を深めることによって得られる親しみと敬意
2. アイヌ文化を身近に感じ、継承していくことの意義

(3) 実践の内容

【実践①】「世界の民族と言語」

○ねらい

- ・世界の多くの国が多民族国家であることを知り、日本もアイヌ民族をはじめとする多民族の国であることを理解する。

○学習内容

〈1年・社会科・地理的分野〉

- ・世界の主な国のさまざまな民族、言語について学習する。
- ・日本で共に暮らしているアイヌ民族をはじめとするさまざまな民族とその文化について触れる。

【実践②】「アイヌ民族、文化を学ぶ」

○ねらい

- ・アイヌ文化を身近に感じるにより、アイヌ文化への親しみを感じ、守り継承していくことの大切さを理解する。

○学習内容

〈1年・社会科・歴史的分野〉

1 時間目

- ・アイヌ民具を使用し、アイヌの伝統文化、昔の生活の様子を学習する。
- ・映像を使い現在のアイヌ民族の様子や文化を継承していく人々の努力を理解する。

- ・現在の地名とアイヌ語の関係を知り、アイヌ語地名に込められている意味を自分たちで調べる。

2時間目

- ・北海道アイヌ協会の方を招き、折り紙を利用してアイヌ文様を作成する。



(4) 成果と課題

① 成果

- ・アイヌ民族と自分たちとのかかわりについて理解を深めることができた。
- ・現在のアイヌ民族について知り、文化を継承していこうという人たちの活動を知ることができた。
- ・北海道アイヌ協会の方たちが、子どもたちに興味を持てるような指導をしてくださったので、子どもたちが生き生きと活動しアイヌ文化の一端を体験することができた。



② 課題

- ・アイヌ民族を地理的分野、歴史的分野、公民的分野としっかりと系統立てた計画を立てて学習する必要がある。
- ・教科の授業として実施したので、授業の進度との関係で外部の講師を招く時期の設定が難しかった。今回は、歴史の中でアイヌ文化の学習を特設の授業（2時間）として設定して行った。